

令和7年度

公共事業評価に係る意見について

評価対象事業

太刀浦第1 コンテナターミナルコンテナクレーン更新事業

北九州市公共事業評価に関する検討会議

令和7年11月19日

1 対象事業

事業名	事業箇所	事業費	事業期間
太刀浦第1コンテナターミナル コンテナクレーン更新事業	門司区 太刀浦海岸	4,970百万円	令和8～ 15年度

本事業は、市民生活を支える重要な物流基盤である太刀浦第1コンテナターミナルに設置している4基のクレーンのうち、3基のクレーンを更新するものである。

太刀浦第1コンテナターミナルは市全体の約50%のコンテナを取り扱う重要な港湾施設であるが、対象のクレーンは設置後27年～29年を経過し、老朽化が著しく、安全性の低下による事故や故障の増加が懸念される。また、近年はコンテナ船が大型化しているため、現状のクレーンでは十分に対応できないケースが増加しており、利用者からはクレーンの大型化の要望が上がっている。

本事業は、クレーンを更新し、利用者ニーズに対応した大型化等を実施することで、安全かつ安定した設備と安定した物流サービスを提供するとともに、物流機能の更なる強化やコンテナターミナルの利用促進を図ることを目的とするものである。

2 事業の進め方についての意見

「太刀浦第1コンテナターミナルコンテナクレーン更新事業」を本計画どおり進めていくことについて、すべての構成員が「異論はない」との意見であった。

3 構成員の主な意見

事業の推進にあたっては、下記の意見があった。

(1) 産業・経済の発展や雇用拡大に向けた取組みについて

本事業が地域企業の発展や新規企業立地に繋がるよう、部署を横断して全庁的に協力しながら取り組んでいただきたい。

(2) 市民への説明について

本事業を進めるにあたり、安全かつ安定した設備の提供や物流機能の強化などの直接的な効果のみならず、地域企業の発展や新規企業立地による産業・経済の発展や雇用に繋がるという副次的な効果についても、広く市民に説明していただきたい。

(3) 工事中のコンテナターミナルの機能維持について

ターミナルの機能が停止することがないように現場での更新工事は慎重に行うとともに、更新工事によって一時的に荷役効率が低下する期間は可能な限り短くなるよう努めていただきたい。

4 北九州市公共事業評価に関する検討会議 構成員

(五十音順、敬称略)

氏名	役職等
き ど まさ え 城戸 将江	公立大学法人北九州市立大学 国際環境工学部 教授
さいとう ゆ り え 齊藤 由里恵	学校法人梅村学園中京大学 経済学部 准教授
たなか やすこ 田中 康子	株式会社大屋設計 執行役員 所長
はらだ みどり 原田 緑	北九州商工会議所 女性会 副会長
みなみ ひろし 南 博	公立大学法人北九州市立大学 地域戦略研究所 教授
もりなが けい 森永 啓	株式会社日本政策投資銀行 九州支店 企画調査課長
よしたけ てつのぶ 吉武 哲信	国立大学法人九州工業大学大学院 工学研究院 教授